平成 30 年度 （2018 年度）

自己評価報告書

学校法人福岡保健学院
八千代リハビリテーション学院

本報告書は、学校法人福岡保健学院　八千代リハビリテーション学院の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間　2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

令和 元年 7 月 31 日

学 校 長　　今井 基次
副学校長　　豊島 宇茂（評価実施責任者）

1. 自己評価の概要と実施状況

1）自己評価の目的、方針

① 教職員が自己評価を行う中で、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。

② 自己評価の妥当性を、学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。

③ 自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。

④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2）自己評価委員会委員 （8 名）

委員氏名	所 属
今井 基次	八千代リハビリテーション学院　学校長
豊島 宇茂	八千代リハビリテーション学院　副学校長
山口 純子	八千代リハビリテーション学院　事務部長
新垣 工	八千代リハビリテーション学院　理学療法学科　教務部長
吉田 和弘	八千代リハビリテーション学院　作業療法学科　教務部長
中﨑 満	八千代リハビリテーション学院　理学療法学科　教務主任
二階堂 晴江	八千代リハビリテーション学院　作業療法学科　教務主任
長曽我部 強	八千代リハビリテーション学院　事務部　主任

（委員会は自己評価の実施、評価、検討のために随時開催する）

3）自己評価方法

平成 30 年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

1） 評定基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

S ： 十分に達成している。　（達成度が高い）
A ： 達成している。　（概ね達成しており、明らかな改善は要しない）
B ： 達成がやや不十分である。（若干の改善を要する）
C ： 達成が不十分である。　（不適合がある、明らかに改善を要する）

2） 自己評価の内容

項目Ⅰ　教育理念、教育目的・目標、人材育成像
項目Ⅱ　学校運営
項目Ⅲ　教育活動
項目Ⅳ　学修成果
項目Ⅴ　学生支援
項目Ⅵ　教育環境
項目Ⅶ　学生の受け入れ
項目Ⅷ　財務
項目Ⅸ　法令等の遵守
項目Ⅹ　社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ　教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等は、学生便覧・パンレット・Web サイト等で広く公表し、学生、受験生、関係者、教職員において確認、共有できている。

課題

継続して、教育理念・目標等を反映した教育課程の構築を図る。

今後の方向性、方策など

教育目標等の周知と業界のニーズ把握の双方向から検討を行う。

小項目　Ⅰ－1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価：S
■コメント：学校案内、ホームページ等で広く公表、周知している。

小項目　Ⅰ－2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、病院、実習施設など）に周知されているか。

■自己評価：S
■コメント：ホームページ、刊行物等で、広く公表、周知している。

小項目　Ⅰ－3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価：A
■コメント：臨床実習、就職活動、教育課程編成委員会等から把握した業界のニーズに対応する教育目標や人材育成像を教育課程に反映させている。

項目Ⅱ　学校運営

総括

運営方針に沿って、適正、円滑に学校運営を行っている。

課題

I-pad の導入、ICT 教育推進など、学校運営に関わる情報化システムの構築。

今後の方向性、方策など

I-pad の活用、ICT 教育の状況を分析して、情報システムの修正、構築を推進する。

小項目　Ⅱ－1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：S

■コメント：法人および学校毎に運営方針を策定して教職員に周知し、方針に合った業務推進であることを、随時、確認している。

小項目　Ⅱ－2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価：S

■コメント：就業規則、業務分掌に則り、業務を推進。意思決定は、学校運営会議、学科会議、学内委員会等で行い、記録、周知している。

小項目　Ⅱ－3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：A

■コメント：学事サーバーによる学事成績や各種情報管理を行い、学生へのメール等による速やかな情報発信、講義や出席確認などを効率的に行っている。

項目Ⅲ　教育活動

総括

卒業で得られる国家試験受験資格に見合う教育活動に努め、学修成果にも表れている。
良好な教育活動ではあるが、更なる改善・向上を目指して取り組みを進める。

課題

2020 年度の理学療法士・作業療法士養成施設指定規則の改訂に向けた教育課程の再編、教員間授業評価の実施、教員個々の指導力育成が課題。

今後の方向性、方策など

カリキュラムの変更申請、教育課程の再編、2020 年度シラバス作成、授業準備を進める。
アクティブラーニングに関する研修会など、教育力向上の取組みを行う。

小項目　Ⅲ－1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：A

■コメント：コアカリキュラムに沿って学科や学内委員会にて検討し、教育課程の編成・実施方針を学校運営会議での確認の上で策定している。

小項目　Ⅲ－2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：A

■コメント：病院・企業など外部講師によるキャリア教育授業を導入。臨床実習では、学校法人とグループ病院で共同開発した臨床実習システムを導入している。

小項目　Ⅲ－3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：B

■コメント：学生からの授業評価を全科目において実施して評価を行っている。教員間の授業評価は一部科目で試行的に導入しており、次年度に拡充を図る。

小項目　Ⅲ－4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価：A

■コメント：国家試験の出題基準や頻度等を考慮し、初年次より重点科目を位置付け、カリキュラム構成、授業展開ともに、国家試験を考慮した内容で行っている。

小項目　Ⅲ－5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価：B

■コメント：専門職であり知識・技能等の修得は十分に行われているが、教育力・指導力については個人の経験に左右される部分が見られ改善すべき課題である。

項目Ⅳ　学修成果

総括

卒業、国家試験、就職、資質向上を目指す教育活動ならびに修学支援を行い、良好な結果が学修成果として表れている。

課題

専門職を目指すモチベーションの維持・向上、能動的学習や生涯教育につながる学修方策のサポート、退学率の低減への取り組みに、更なる充実が必要である。

今後の方向性、方策など

初年次から卒業までの一貫した修学支援、国家試験対策学習の構築を図る。

小項目　Ⅳ－1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価：S

■コメント：国家資格取得を前提に求人も多く、求人情報の掲示から就職説明会の開催などの就職活動支援を行い、開校以来 100%の就職率である。

小項目　Ⅳ－2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価：A

■コメント：国家試験を考慮した授業内容や学習方策、模擬試験の実施、国家試験対策学習を行い、全国平均を上回る合格率を継続している。

小項目　Ⅳ－3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価：A

■コメント：モチベーションを高める初年次教育、担任制による修学サポートや面談、学生相談室の設置など、退学者の低減を図る取組みを行っている。

小項目　Ⅳ－4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価：A

■コメント：障害者イベント等の情報提供、教職員の参画・引率、学生のボランティア参加等を行い、それらの学生の社会的活動を把握している。

項目Ⅴ　学生支援

総括

クラス担任制により学生とのコミュニケーションを図り、状況に応じて学生を支援する体制を整備しており、保護者、高等学校等との連携も適切に行っている。

課題

修学支援が求められる場合には、早い段階から相談や支援を行い、効果的な介入を行う体制をとっている。

今後の方向性、方策など

学生の修学状況に関する学内の報告、連絡、相談を速やかに行い、早期に適切な対応を進めるべく、学生対応に関するガイドラインを設けている

小項目　Ⅴ－1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価：S

■コメント：就職支援委員会と担任を中心に支援体制整備し、就職率 100%を継続している。

小項目　Ⅴ－2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価：A

■コメント：担任の定期面談から、状況に応じて学科責任者との面談を実施する。カウンセリングにも対応できる相談室を月 2 回開設している。

小項目　Ⅴ－3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価：A

■コメント：文書通知や説明会、保護者面談等により連携を図っている。特に出席や単位取得、進級・卒業に係る面談は原則、保護者同席にて行っている。

小項目　Ⅴ－4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価：S

■コメント：高校での進路授業やガイダンスへの協力、定期的な進路室訪問等により連携を図り、学校関係者評価委員会を通した取り組みも行っている。

小項目　Ⅴ－5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価：A

■コメント：教育課程に関わる支援のほか、学生寮や通学定期などの生活面、奨学金相談窓口や特待生制度などの経済面でも修学支援を行っている。

項目Ⅵ　教育環境

総括

施設・設備、臨床教育体制を整備して、学校評価等で確認している。臨床実習については実習病院指導者との会議や教育課程編成委員会においても検討している。

課題

防災体制に関して、総合防災・避難訓練の実施や計画を充実させる。

今後の方向性、方策など

総合防災・避難訓練の実施時期を検討、確実な実施体制を整備していく。

小項目　Ⅵ－1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価：A

■コメント：設備、教材、図書等は基準以上であり、自己点検や外部評価で確認して、年度毎に必要な整備を行っている。

小項目　Ⅵ－2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価：A

■コメント：臨床実習病院と共同開発した実習システムを導入して、指導者や設備などリハビリテーション環境が充実したグループ病院にて、臨床教育を行っている。

小項目　Ⅵ－3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価：B

■コメント：防災設備点検・管理、防災訓練等を行い、消防計画や学校保健安全計画等の周知を図っている。

項目Ⅶ　学生の受け入れ、募集

総括

適切な情報提供、学校案内によって理解を得るように努め、入学定員を満たす学生の受け入れにつながっている。

課題

適切な情報提供の継続。

今後の方向性、方策など

入学後にも情報の伝達、周知の状況を把握、高等学校へは入学者の修学状況の報告などの情報提供を行い、連携を深めている。

小項目　Ⅶ－1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価：S

■コメント：進路授業、高校進路室への説明、推薦入試制度等による連携を通して、職種、資格、将来性、学校案内、教育課程など、十分な情報提供に努めている。

小項目　Ⅶ－2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価：S

■コメント：資格取得、就職状況など職業実践専門課程認定に関わる情報公開に加えて、過年度実績、国家試験対策の具体的内容なども広く公表し、オープンキャンパスや問い合わせへの対応などでも説明の機会を設けている。

項目Ⅷ　財務

総括

財務基盤は安定しており、適正な収支計画のもとでの事業推進、会計管理を行っている。

課題

安定した財政基盤の維持。

今後の方向性、方策など

適正な収支計画による学校運営の継続、安定した入学者募集への取組み。

小項目　Ⅷ－1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価：S

■コメント：法人で中長期的財政予測を行い、理事会にて法人ならびに各校の財政基盤の安定を確認している。

小項目　Ⅷ－2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価：S

■コメント：学校法人ならびに学校毎の年度事業計画・予算により、妥当な収支計画のもと、予算執行、事業遂行、会計処理を、法人・学校双方で随時確認している。

小項目　Ⅷ－3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価：S

■コメント：財務管理に関するチェックを随時行い、定期的な法人本部からの会計管理、外部監査、理事会での審議を行っている。

項目Ⅸ　法令等の遵守

総括

法令等を遵守した適正な学校運営を行い、第三者評価においても認められている。

課題

2020 年度理学療法士・作業療法士養成施設指定規則改訂への対応。

今後の方向性、方策など

指定規則改訂に伴い、特にカリキュラム・臨床実習に関する対応を準備して、適正な教育課程を構築する。

小項目　Ⅸ－1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価：S

■コメント：関係法令、理学療法士・作業療法士養成施設指定規則に準じて自己点検を行い、学校評価の実施、第三者評価の受審においても確認し適正な運営に努めている。

小項目　Ⅸ－2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価：A

■コメント：個人情報保護規程に則り、情報は電磁的管理のもとで適正に運用を行っている。

項目Ⅹ　社会貢献・地域貢献

総括

施設の提供、人材の派遣、ボランティア協力を行っている。

課題

社会・地域貢献の機会の確保と継続。

今後の方向性、方策など

社会活動の定着と支援体制を検討して行く。

小項目　Ⅹ－1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価：A

■コメント：臨床実習病院、理学療法士・作業療法士職能団体などへの会場提供や講師派遣などの人的協力、学校イベントでの地域公開講座などを行っている。

小項目　Ⅹ－2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価：S

■コメント：・毎年、地域の障害者イベントに学校として協力し、教員の実行委員としての参画と学生の引率、学生のボランティア参加を奨励している。その他にも地域ボランティア等を学内掲示により紹介している。